

Case

8

## 誤検知率の低いセキュリティゲートの開発に成功

アパレルメーカーなどで利用が拡大している非接触の読み取りが可能なRFID。顧客の困りごとに耳を傾ける中で商機を見出し、自社のコア技術を用いながらセキュリティゲートシステムを完成させた。

事業者名：峰光電子株式会社 事業年度：26年度

事業テーマ：盗難防止RFIDセキュリティゲートでの応答精度等を飛躍的に改善する新制御方法の開発

## 企業概要



アンテナやコネクタなどの設計、製造、販売までを行っている。幅広い分野で活用される無線通信システムに対応するため、カスタム設計を基本とするアンテナ製品は、営業部門と設計開発部門が連携し、お客様のニーズを的確に把握することによって要望に応える体制を整えている。また、大学などと共同で研究開発に取り組み、当社独自の新製品開発にも努めている。自社内に電波暗室を設けており、高質で綿密な計測を行っている。

峰光電子株式会社

代表取締役 志塚 尚己

1981年4月

〒223-0058  
横浜市港北区新吉田東  
8-45-21

13名

5,000万円

045-547-2651

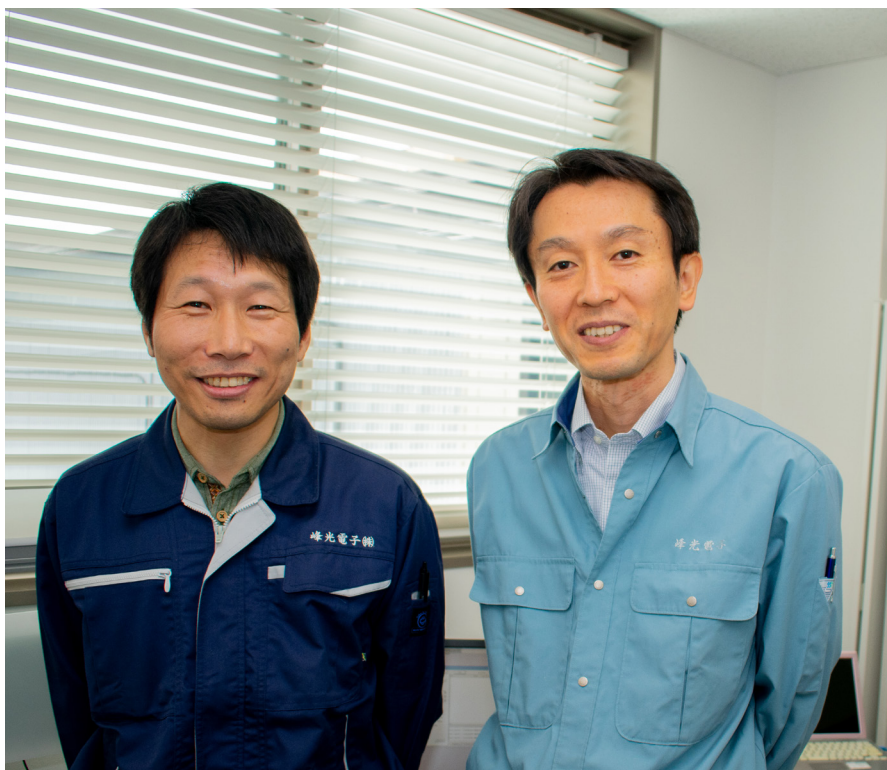
情報通信機械器具製造業



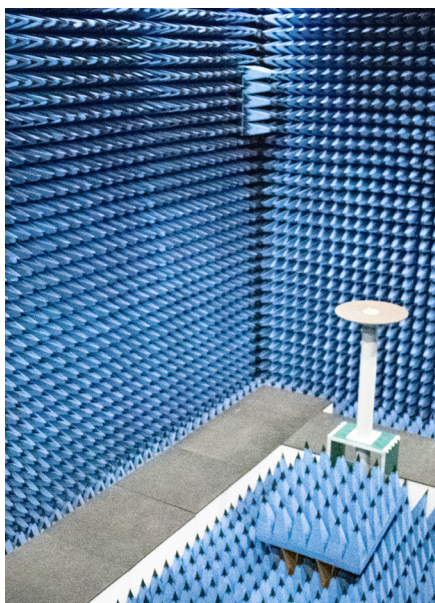
WEBサイトへ

## 取材の現場から

顧客の声を真摯に聞くことで、新技術としてRFIDに商機があることを見極めた。さらに、自社のアンテナというコア技術のみを商品化するのではなく、システム全体を設計製造したことで、売上の拡大につながっている。



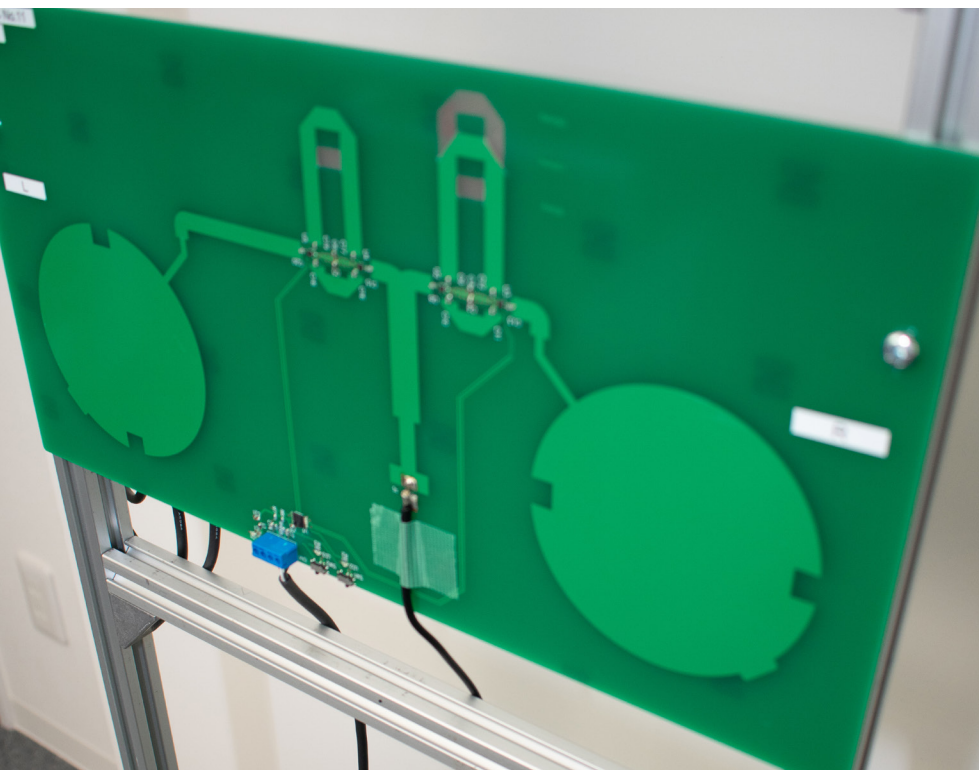
▲開発を主導した吉田さん・岩田さん



▲電波を測定する電波暗室



▲高級ショップ向けのガラスアンテナ



▲従来よりも小型化されたゲート

## 補助事業のきっかけ

- ・数年前からRFIDが普及し始め、アンテナ関連で今後需要の伸びが期待できそうだったゲート用アンテナでの引き合いが増えてきた。
- ・アンテナを設置するだけの事業ではなく、システム全体を設計することになった。

## 事業計画の概要

- ・放射する指向性を電氣的に制御可能としたアンテナを製作し、それをRFIDセキュリティゲートに組み込んだセキュリティゲートシステムの開発を行った。
- ・薄型かつ従来比1/29の誤検知率を達成した。

## 事業化状況

- ・当初想定していなかった倉庫での出入庫の管理等の利用が広がっている。
- ・営業や展示会などを通じて、顧客の声を直接聞きながら自社製品を広めていきたいと考えている。

## 当初の想定から広がる利用客

小型で薄型。さらに誤検知率を低下させた商品補助事業では、店舗の万引き防止に使われるゲートシステムを開発しました。これまで取引のあるメーカーから、ゲートの誤検知が多く、ゲート内であってもブザーが鳴ってしまうなどの悩みを聞いてました。当社はアンテナ部分の製作は得意としていたので、ゲートも含めてシステム全体をつくってしまうということになりました。誤検知率をなくすために、ゲートに最適な電波の振れ幅など、特にアンテナを制御する部分は検証の手間もかなり苦労しました。開発の結果、従来あるゲートよりも小型で、薄さは半分以下、さらに誤検知は1/29程度に減少しました。

現在は物流業からの引き合いが多くなっています。物流倉庫では在庫管理を行うことがありますが、倉庫スペースが狭いと、荷物を持ちながらゲートの側を通る際に誤検知してしまうことがあります。これをどうにかできないかという相談が多くなっています。

補助事業を始めた当初は、RFIDとはどういうものか浸透していなかったたので、導入に関しては手探りなお客様も多かったですが、今はかなり具体的な問い合わせも来るようになっていきます。

## 新たな利用シーンに向けて

今後は誤検知率をさらに低く、限りなくゼロに近づけることを目指していきたいです。また、ガラス全体にアンテナ機能を持たせた商品も開発しました。これは化粧品や宝石、時計などの高級品を取り扱うショップや、アパレルショップで商品を棚置きする際など、デザインを気にされるお客様が利用されることを想定しています。さらにガラスは薬品に強いので、病院での薬剤管理などに利用することも可能です。以前から棚用のアンテナを作っていましたたが、ガラス素材ではなかったため、店舗イメージが損なわれてしまっていました。これも取引先の声から生まれた商品です。

今後取引先からの声に誠実に応えていくことで成長していきたいと思っています。